

## みずほ情報総研株式会社

ユーザがダイナミックに変動する  
ホスティング用メインフレームの ID 管理。  
セキュリティをさらに高いレベルに引き上げながら、  
劇的な業務効率向上を実現した CA Identity Manager

ID 発行のリードタイムは 1 週間が 1 日に  
監査に提出するための  
ユーザ ID リスト作成は 1 週間が瞬時に



みずほ情報総研株式会社  
システム運営第 2 部  
インフラ管理チーム  
次長

間宮 敏則氏



みずほ情報総研株式会社  
システム運営第 2 部  
インフラ管理チーム  
課長

森本 芳生氏



みずほ情報総研株式会社  
システム運営第 2 部  
インフラ管理チーム  
管理第 2 課

阿久津 雅史氏

IT をコアテクノロジーとし、自然科学から社会科学まで幅広い領域をカバーする総合情報企業 みずほ情報総研株式会社。同社でホスティングビジネスを展開するシステム運営第 2 部では、メインフレームの ID 管理体制に課題を感じていた。オープン系システムの ID 管理体制強化計画をきっかけに、両環境で一元的に ID 管理が可能なソリューションの導入を決断。選ばれたのは、メインフレーム内プログラムにほとんど影響を及ぼさず、セキュリティ管理ソリューション CA TopSecret とも親和性の高い CA Identity Manager だった。

導入の結果、ユーザ ID の発行リードタイムは 1 週間から 1 日に、ユーザ ID のリスト作成は 1 週間から瞬時にと、ユーザの利便性や業務効率が劇的に向上。なにより、監査対応強化や職務分掌が実現したことにより、より高度なセキュリティレベルを達成することに成功した。

## 顧客のビジョンを実現する 質の高いトータルソリューションを提供

みずほ情報総研株式会社は、IT をコアテクノロジーとし、自然科学から社会科学まで幅広い領域をカバーする総合情報企業だ。4,000 名を超える各分野のプロフェッショナルが、的確な分析と誠実なコミュニケーションを通じて、顧客の真のニーズを理解し、長期的かつ俯瞰的な視点からその未来を描いている。これを可能にしているのは、みずほフィナンシャルグループの一員として培った確かな技術と信頼である。

提供しているサービスは幅広く、コンサルティング・調査研究サービス、システムインテグレーション、アウトソーシングの3つのフィールドに展開している。

まずコンサルティング・調査研究サービスでは、社会経済、情報通信、環境エネルギー、サイエンスの4つの領域で、それぞれ高い専門知識を持つエキスパートが、一歩先の未来を見つめた質の高いソリューションを顧客に提供している。

システムインテグレーションおよびアウトソーシングでは、金融、法人、公共とマーケット別にソリューションを最適化、顧客企業の期待に応えながら、その価値のさらなる向上を支援している。目指すは、顧客企業に求められるビジネスパートナーとして、ともに歩み、ともに成長する企業だ。

## アウトソーシングビジネス向け メインフレーム ID 管理に煩雑さ

同社システム運営第2部は、アウトソーシングビジネスを担当する部門である。顧客の要望に応じたシステム環境を幅広くラインナップし、受託計算、ハウジング、ホスティングなどバラエティに富んだサービスを展開している。

そうした中、この部門で運用されているメインフレームは、金融分野、法人分野、公共分野とすべてのマーケットの顧客が利用

するインフラシステムである。ここで以前から課題となっていたのが ID 管理だった。このメインフレームで複数の顧客のシステムが稼働しているだけに、システム開発を行ったり、運用するユーザが社内外を含めて非常に多く、また頻繁にこのユーザの登録・削除が発生する。平均して開発ユーザ約 600 名、本番ユーザ約 300 名が存在していたが、その ID の管理が困難だった。

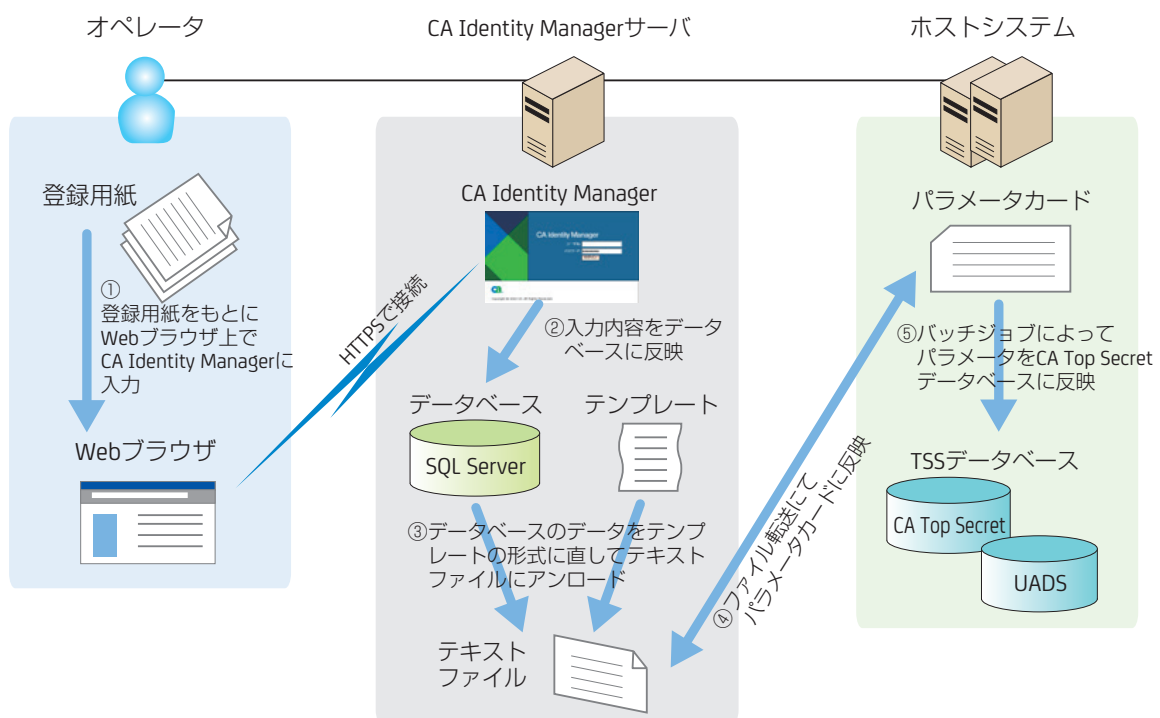
それには理由がある。開発ユーザに付与される権限体系はセキュリティの観点からシンプルに1つのみ。そのため ID 登録に関してモジュール化が図られていた。しかし、本番ユーザは役割によって必要とする権限が非常に複雑でシステム化が難しいため、人間が判断して申請処理を行っていたのである。

具体的に、本番ユーザの ID 発行フローは次のようになっていた。本番環境を利用したいユーザは、利用開始日1週間前までにセキュリティ担当者宛てに ID 発行申請書を提出する。それを受け取ったセキュリティ担当者は、メインフレームの専用端末から、ユーザの複雑な権限要件をパラメータ化、JCLとしてサブミットする。そして、設定どおりにユーザ ID が機能するかどうかを確認した後、ユーザに ID の発行を通知する。

ここでの最も大きな問題は、ID を発行するのに時間がかかるという点だ。ID が必要ということは何か作業が必要だということで、それが外部の協力会社スタッフであったりすると、“来社している間に作業を終えてしまいたい”と急いでいる場合が多い。また、年度が変わりで大量に ID の更新が発生するときなども、発行処理が停滞しがちになる。同部ではこのフローを何とか改善して、アウトソーシング向けに提供しているメインフレームのサービスレベルを向上させたいと考えていた。

そうした中、メインフレームと同様にアウトソーシングビジネスで提供しているオープン系管理システムで、ID 管理を強化するという計画が持ち上がった。それなら、そこにメインフレームも一緒に考え合わせようということになり、両環境の ID 管理を一元的

図1 CA Identity Manager 導入後の、メインフレーム・ユーザ ID 発行の流れ



に行えるソリューションを調査し始めた。

## 全環境の ID 管理を一元化できる CA Identity Manager を選択

その結果、システム運営第 2 部は 4 つの製品を採用候補に挙げた。その中で、当初より有望視していたのが、CA Technologies の CA Identity Manager だった。同部では、メインフレームのセキュリティ管理ソリューションとして CA Top Secret を利用している。みずほ情報総研株式会社 システム運営第 2 部 インフラ管理チーム 管理第 2 課 阿久津雅史氏は、CA Technologies の主催する CA Identity Manager 紹介セミナーに参加して、標準提供のコネクタ経由で CA Top Secret と ID 情報をやりとりできることを知り、まず親和性の高さを評価した。

「コネクタでオープン系システムとメインフレーム間接続を実現する機能、ワークフロー機能などを実際に製品デモで見て「これなら構想したように使える」と思いました。他にも両環境をカバーした製品はありましたが、メインフレーム内のプログラムに手を加えながらカスタマイズする必要がありました。共同利用システムでのプログラム改修は、全体の稼働に影響を与える可能性があるため、採用できないと判断しました。また、メインフレームの技術者がいないところには任せられません。このような理由から、CA Identity Manager の採用を決定したのです」(阿久津氏)

2008 年秋のことだった。

## 監査対応強化の必要から メインフレームの ID 管理体制整備を先行

当初はオープン系システムの ID 管理体制強化計画から始まったプロジェクトだった。しかし、そのころから日本版 SOX に関連してメインフレームの監査がより厳格になってきた。管理状態を把握するためにコンピュータ出力されたユーザ ID リストの提出を求められるケースも出てきたのだ。抜け漏れのないリストを提出するためには、ユーザ ID の棚卸しを行って、その結果を関係部署に確認してもらわなければならない。開発ユーザと本番ユーザの

ID 管理手法が異なるために、その突き合わせに約 1 週間を要した。関係部署への配布・回収を考えると、監査の 1 ヶ月前から作業を開始する必要があり、非常に担当者の負荷が高かった。そこで、その負荷を軽減するため、まずメインフレームに CA Identity Manager を適用することになった。

導入に当たっては、本番ユーザの権限要件を整理して 20 パターンまでに簡素化すること、課金のための科目コードやプログラマ ID などユーザ ID にひもづく付加情報をできるかぎり CA Identity Manager に集約することなどが基本方針として決定された。また、ID 登録作業の労力を削減するため、画面のレイアウトにもこだわるとともに、登録された ID の権限・機能に間違いがないことを承認者が迅速かつ簡単に承認できるワークフローも実装した。取り組むべき仕事は非常に多かったが、CA Technologies の CA Identity Manager 担当技術者は自ら作成した課題管理表の下、1 つずつ着実にクリアしながらプロジェクトをリードした。そのかいあってか、構築作業は 3 ヶ月で終了。その後 4 ヶ月間をテスト工程に当て、当初の予定どおりの 2009 年秋、メインフレームを先行とした統合アイデンティティ管理がスタートした。

## 従来の仕組みを生かし、 迅速に安全にデータ送信フローを構築

新しい仕組みの下で、メインフレーム上のユーザ ID 発行の流れは次のようになった。

まず CA Identity Manager サーバに対して、ID 登録担当者がユーザから提出された申請書に従ってデータエントリを行う。ここにあらかじめ 20 通りの権限テンプレートが用意されている。データをテンプレートに当てはめてパラメータ化、データ転送ツールでメインフレームのバッチ処理プログラムへと送りこむ。バッチ処理プログラムが走ると、パラメータが CA Top Secret へ取りこまれて ID 登録が完了する(図)。

このようなフローを実装した背景を、みずほ情報総研株式会社 システム運営第 2 部 インフラ管理チーム 課長 森本芳生氏は次のように語る。

「今回、CA Identity Manager の選定においてはメインフレームへのコネクタの存在を評価しましたが、結果としては使いませんでした。これは、メインフレームとサーバとをコネクタ接続することによって、新規の接続環境を構築する必要があり、セキュリティ確保が困難であったからです。そのかわりに選択したのがすでにメインフレームとのセキュアな接続環境が整備されたデータ転送ツールを使った日次送信でした。

これがこれまでの開発ユーザ ID 登録の仕組みを最大限活用できる方法だったからです」

## ID 発行リードタイムは 1 週間から 1 日に、 ID リスト作成は 1 週間から瞬時に。

CA Identity Manager を導入したことで、メインフレームの ID 管理体制は大きく変わった。開発ユーザであれ、本番ユーザであれ、ユーザ ID 発行申請書が届けば、即座に ID 登録担当者が CA Identity Manager サーバに対してエントリを行い、上記のようなフローをたどり、その結果が翌日には反映され、ユーザ ID は利用可能になる。つまり、ユーザからしてみれば、ID 発行までに 1 週間かかっていたのが 1 日に短縮されたことになる。

また、エントリ画面がリデザインされたことにより、ユーザビリ

### CA Identity Manager 導入効果

・ ID 発行リードタイムが 1 週間から 1 日に短縮

・ 1 週間かかった ID リストの即時作成を実現

・ エントリ画面のリデザインによりユーザビリティが向上

・ データ承認処理にかかる時間が大幅に短縮

・ 職務分掌により内部統制的なけん制が効くことになり、セキュリティが向上

ティが向上している。これは誤入力を防ぐという意味でも功を奏しているようだ。また、メインフレーム担当者でなくとも GUI から登録作業が行えるため、登録をメインフレーム技術者以外に任せられる。

さらに、ID 発行関連のデータ承認担当者は、CA Identity Manager から通知を受け、ボタン 1 つで当該画面が確認でき、ボタン 1 つで承認ができるようになった。従来は、紙の申請書が手元に届いた時点で、自らメインフレームにログインして内容を確認していたというから、業務処理時間の短縮度は大きい。

そして、監査レポートだ。これもボタンを押せば、PDF 化された最新リストが、開発ユーザ、本番ユーザともにあっという間に出力される。前述のとおり、以前はこの作業に 1 週間かかっていた。

加えて、ID 管理に関して職務分掌も実現した。この点について、みずほ情報総研株式会社 システム運営第 2 部 インフラ管理チーム 次長 間宮敏則氏は次のように語る。

「CA Identity Manager がなかったころは、ID 登録はセキュリティ担当者の仕事でした。それはメインフレームおよび CA Top Secret に関する専門的知識が必要だったためです。しかし、今は ID 登録は ID 登録担当者が行えます。セキュリティ担当者の作業負担が削減でき、職務分掌によりセキュリティ向上につながりました。より厳密に内部統制が効かせられるようになったのはよかつ

たと思っています」

## 満足度高い ID 管理が実現、 今後はオープン系システムへも適用

「セキュリティレベルを上げながら、迅速な ID 発行が可能になり、内部的な業務効率向上も実現しました。メインフレームの ID 管理、セキュリティ管理としては、現時点で充足した機能を完備できました」

一元的になったメインフレームの ID 管理を、阿久津氏はこう評価する。

ここで結果を出したことが追い風になったのか、同部では、オープン系システムのセキュリティ強化、ユーザ認証基盤強化にも本格的に乗り出すことになった。ここでは、CA Identity Manager とともに、SSO ソリューション CA Single Sign-On、特権ユーザ管理ソリューション CA Privileged Identity Manager の活用を決定している。まずは今後の展開としては、同部で管理のために利用しているサーバ群約 100 台を対象に、CA Identity Manager での ID 管理を実現する予定。その後は顧客のハウジング環境、ホスティング環境へも、監査対応強化を実現する付加価値メニューの 1 つとして提供することを検討している。

### 企業プロフィール

#### みずほ情報総研株式会社

みずほフィナンシャルグループの一員として、培った確かな技術と信頼を強みに、顧客に信頼される IT パートナーを務める。企業戦略などの策定および実行支援に関わる経営コンサルティングから IT 戦略・情報化構想の策定・評価といったシステムコンサルティング、社会経済分野から自然科学分野にわたる調査研究サービス、さらには金融、公共、法人といったマーケット別のシステムソリューションやアウトソーシングなど幅広くビジネスを展開。顧客のビジョンを実現する質の高いトータルソリューションを提供している。



※製品の詳細情報については、弊社 Web ページ ([www.ca.com/jp](http://www.ca.com/jp)) をご覧いただくか、CA ジャパン・ダイレクト (0120-702-600) までお問い合わせください。

## CA Technologies

お問い合わせ

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル  
お問い合わせ窓口：CA ジャパン・ダイレクト 0120-702-600  
WEB サイト：[www.ca.com/jp](http://www.ca.com/jp)

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。  
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。  
©2014 CA, and / or one of its subsidiaries. All Rights Reserved.